

とよのっこ

学校便り
長野市立豊野西小学校



第103回校庭運動会

17日(土)

今年も厳しい残暑で、猛暑の中、連日がんばって練習に取り組んできました。運動会の練習は暑さとの戦いでもありました。そして、暑さに負けずがんばり通したことで、素晴らしい運動会での競技や演技につなげることができました。心も体も強くたくましく成長させた児童たちです。

運動会準備では、暑さ対策も大きな課題でした。運動会当日は、幸いにして雲が多い天気、よかったです。児童たちは、今年のスローガン



赤組も白組も勝利にむかってつき進もう！

組体操5・6年 大ピラミッド

のもと、競技に演技に力一杯取り組んでくれました。

児童のがんばりはもちろんですが、当日来校し応援してくださったご来賓、保護者、地域の皆様にも、後押ししていただきました。豊野音頭にも加わっていただきました。また、大玉送りやPTA綱引きに参加してくださったお父さんお母さん方には、大人のパワーのすごさを見せていただきました。さらに、PTA役員の方には、前日の準備、終了後の後片付けに、また交通整理にと、多大なご協力いただきました。本当にありがとうございました。

児童のがんばりと支えてくださった全ての方のお陰で、第103回目の運動会も大成功で大きな成果を得ることができました。



9月のトピックス

命を守る

避難訓練と下校時引き渡し訓練 1日(木)

9月1日の防災の日に合わせて、学校でも2回目の避難訓練を実施しました。今回は地震を想定しての訓練でした。

さらに今年は、3月の大震災を受けて、「大地震の発生とともに道路が寸断し、児童の下校が困難な状況になった」場合を想定して、避難訓練の延長として、下校時引き渡し訓練も実施しました。

避難訓練では、休み時間に地震が発生を知らせる非常ベルが鳴りました。児童は、それぞれの判断で集合場所に集まり、かけた先生や高学年を先頭に、避難しました。

休み時間、突然の非常ベルに驚きの声も多少出てしまいましたが、全体的には放送の指示を静かに落ち着いて聞くことができました。あいにくの雨で、避難場所が想定した校庭から体育館に変更になりましたが、慌てることなく指示に従って、きちんと避難することができました。

まとめの会では、校長先生の話の静かに

真剣に聞くことができました。改めて、「自分の命の守り方」について考えることができました。

午後の下校時引き渡し訓練では、平日にもかかわらず、大勢の保護者のみなさんにご参加いただきました。ありがとうございました。

実施してみて、確実に引き渡す方法について工夫の余地が見えてきました。今後検討し改善していきます。

起きてほしくない緊急時ですが、昨今の地震、台風などをみるに、この訓練の必要性が高まっているのも現実です。豊野は熊も要注意です。

今後とも、ご協力をお願いいたします。

秋の交通安全教室 29日(木)

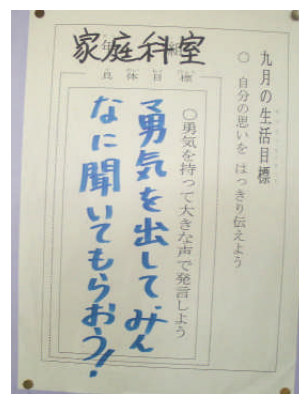
1, 2年生は歩行について、3~6年生は、自転車の乗り方について、それぞれ交通安全について学習しました。

今後も「事故なし」が願いです。

9月の重点目標

9月の生活目標は、重点目標のうち、『きく話す「自分の言葉で伝えられる子ども」』に焦点を当てた、「自分の思いをはっきり伝えよう」でした。共通の具体目標は、「勇気をもって大きな声で発言しよう」です。そして、各学級では、さらに自分たちの具体目標を決めだし、取り組んできました。右の写真は、家庭科室に掲げられた目標です。学級だけでなく、特別教室でも共通意識でがんばってきました。

運動会では、顔の表情や体の動き、態度で自分の思いを伝えてくれました。「言葉で思いを伝える」こともこの1ヶ月がんばってきましたが、その力をさらに伸ばして行ってほしいところです。



9月には、校長講話がありませんでしたが、重点目標に合わせて、校長先生より以下のような話を紹介していただきました。



五日市剛氏による「ツキを呼ぶ魔法の言葉」という本があります。氏の講演をもとにつくられた小冊子が評判を呼び、本となったとのこと。長野市図書館より借りて読んでみました。以下はあらすじです。

五日市氏は26歳の頃までは、人の欠点ばかりが目についてしまったそうである。その欠点を毒のある言葉で指摘して相手を傷つけてしまう。そのために、周囲との関係が悪くなるばかりで、八方ふさがりになってしまった。そんな現状を変えるべく、自分を見直そうとイスラエルに出かけた。

ところがイスラエルでは、財布を無くし、両替でサギに遭う。所持金はほとんど失うことになった。大変に寒い夜だったが、どう探しても泊まれるホテルが一軒もなかった。困り果てた氏は、一人のおばあさんと出会う。結局、その家に泊まることになる。その夜はおばあさんの家で暖かいスープをいただきながら、おばあさんの話に耳を傾ける。最後におばあさんより魔法の言葉を授かる。

その親切なお婆さんは、次の言葉を語ったという。

「ツキを呼ぶ魔法の言葉があるの。これさえ唱えれば、誰でもツキが手に入るわ。しかもそれはすごく簡単で単純な言葉でなの。それは『ありがとう』と『感謝します』の二つよ。『ありがとう』は何か嫌なことがあったら口に出すとよいわ。よいことがあったときは『感謝します』と口にするとよいのよ。

嫌なことがおこると、嫌なことを考えるものなの。すると嫌なことがまたおこる。『ありがとう』は口にすることでその不幸の連鎖を断ち切ってくれるのよ。『感謝します』はよいことがあったときに唱えるといいわ。こうなりたいという願いが実現したこととして口に出してもいいのよ。その言葉を忘れずにいたらこれから先の人生ががらりと変わるわ。」

さらにおばあさんは絶対口にしてはならないことがあるとも言った。それは、「汚い言葉」と「怒ること」。汚い言葉を口にするとその言葉どおりの人生となり、怒るとそれまで積み重ねたツキが唼くに吹っ飛んでしまうとのこと。帰国してからの作者は魔法の言葉を意識して口にするようになった。あれほど目についた他人の欠点が、不思議と気にならず、協力者や理解者に囲まれるようになった。おばあさんの言ったとおりの魔法の言葉が味方してくれたのだ。

よく分かる気がします。心の中は容易には理解されません。ですから、私たちは言葉を通して人とつながっています。そこで、よい言葉を使うとよいつながりができ、悪い言葉を口にするとせつかくつくられたよいつながりが去ってしまいます。言葉は人と人を結びつける大切な宝です。それだけに言葉を大切にしたい。そんなことを感じさせてくれた本でした。

※ 10/2(日)は、PTA資源回収です。またご協力いただきますが、よろしくお願いたします。